

# 中国四国グループ内神経難病治療施設における ナースコール環境の実態について －作業療法士による管理運営－

楠原敦子<sup>†</sup> 小林理英

IRYO Vol. 76 No. 2 (129-134) 2022

## 要旨

国立病院機構 (National Hospital Organization : NHO) の多くの施設で作業療法士 (Occupational Therapist : OT) は通常のナースコール (Nurse call : NC) 操作が困難な重度身体障害を呈す神経難病患者に対し、コミュニケーション支援の一つとしてNC操作支援を行っている。しかし、NC環境はNHOグループ内の各施設によってもさまざまであり、支援方法や管理に難渋することが少なくない。そこで、南岡山医療センター (当院) の所属する中国四国グループ内22施設のうち神経難病治療を行う16施設のOTにアンケート調査を行い、神経難病患者へのNC操作支援における管理運営について、現状を把握するとともに今後の課題を検討した。アンケート結果より、NC環境においては13施設で意思伝達装置を操作するための入力スイッチ (スイッチ) を使用したNC操作を実施していた。その環境調整においてはOTが専門の知識を十分に持たない状態で品質に不安を抱えながら手作りで行っている施設も複数あった。また、スイッチを使用したNC操作導入にともなう同意書の整備ができていない施設が半数あった。運営においては、1. 設定に時間がかかる 2. 適切に使用できない 3. 病状に応じた変更がスムーズにできないなどの問題が明確となった。アンケート後、当院では結果をもとに、品質を安定させ導入時の説明文書を見直しNC環境を整備した。今後は、グループ内施設の神経難病患者に安定したNC環境が提供されるよう、問題点の共有を図り、課題共通項目においてはマニュアル化しグループ施設全体の環境整備を進めていきたい。

キーワード 作業療法士, ナースコール, 神経難病, 環境整備, 管理運営

## はじめに

医療施設では身体的異常を感じた時、療養上の疑問を感じた時などさまざまな場面で、患者から看護師への連絡手段としてNC (Nurse call : NC) シス

テムを導入している。現在のNCシステムの主要メーカーはアイホン(株)と(株)ケアコムがあり、2社とも通常のNCが操作困難な場合でも、患者の残存機能で操作できる子機を複数販売している。しかし、神経難病患者は病状進行にともない対応子機がない状況

国立病院機構南岡山医療センター リハビリテーション科 †作業療法士  
著者連絡先: 楠原敦子 国立病院機構南岡山医療センター リハビリテーション科  
〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066  
e-mail : kusahara.atsuko.cq@mail.hosp.go.jp  
(2021年9月6日受付, 2022年2月25日受理)

The Actual Situation of the Nurse Call Environment at the Intractable Neurological Disease Treatment Facility in the Chugoku-Shikoku Group : Management and Operation by an Occupational Therapist  
Atsuko Kusahara and Rie Kobayashi, NHO Minami-Okayama Medical Center Department of Rehabilitation  
(Received Sep. 6, 2021, Accepted Feb. 25, 2022)

Key Words : occupational therapist, Nurse call, intractable neurological disease, environmental arrangement, management and operation